市指定有形文化財

熊谷家住宅（くまがいけ・じゅうたく）

熊谷家は、屋号を「酢屋（すや）」といい、幕末には酢を製造していました。当時は矢沢村の肝煎（きもいり）を勤めており、盛岡藩主席家老であった楢山佐渡（ならやま・さど）の家士でもありました。

熊谷家本屋は、江戸時代の後期、おそらく天保年間（1830〜1844）頃の建築と推定される直屋（すごや）です。東向きの入口を入ると土間（ニワ）があり、奥に炉（ヒビト）が切られた台所と水屋、左手に馬屋（厩）があります。全体的には、盛岡藩の特徴とされる「内-うまや」と岩手県中南部に多い「奥-じょうい」の間取り配置を併せもつ大型の建築です。

付属屋５棟（土蔵２棟、便所、小屋、屋敷神）のうち牛頭天王を祀る屋敷神は、慶応３年（1867）、花巻の名工と謳われた二代目高橋勘次郎の作です。また、本屋正面には、かつて３棟の酢・醤油蔵があったと伝えられています。

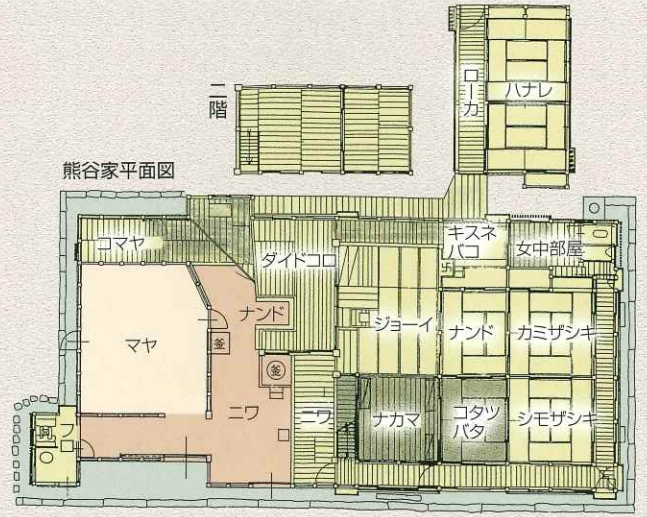
熊谷家は、江戸時代後期の生活様式とともに、盛岡藩の南辺地域の大型民家が持つ屋敷景観を今に伝える貴重な文化財です。

▲熊谷家本屋の全景
東向きの入口をもつ本屋は、どっしりとした落ち着きのあるたたずまいをみせています。

▲屋敷内での神楽上演
地域の胡四王神楽や幸田神楽（ともに岩手県指定無形民俗文化財）が平安や豊作を祈り神楽が舞われます。

◀熊谷家の内部
黒光りする板間と建具など、昔の生活感漂う内部は、訪れる人にゆっくりとした時の流れを感じさせてくれます。

熊谷家平面図



熊谷家見取り図

現在地：岩手県花巻市矢沢10地割149
名　称：「熊谷家」本屋及び付属屋５棟（くまがいけ・ほんやおよびふぞくや５とう）
構　造：寄棟造り、茅葺き
母　屋：桁行き17.1m（馬屋含み23.1m）、梁間10.8m
指定日：平成元年11月24日
<公開時間：9:00〜16:30　　休館日：年中無休>